

日本カント協会委員会有志による声明

このたび、菅義偉内閣総理大臣が、日本学術会議の新規会員として推薦された 105 名のうち 6 名の任命を拒否したことに対して、日本カント協会委員会有志は抗議します。

18 世紀の哲学者、イマヌエル・カントは、「理性の公共的使用」の名の下に「言論の自由」や「学問の自由」の重要性を主張するとともに、「公表性」という観点から政治権力者がみずからの行為原理を隠すことの反道徳性を論じました。

この観点から今回の事態を見ると、菅内閣総理大臣が件の任命拒否について明確な説明を拒んでいることは重大な問題であると判断せざるを得ません。それが「公表性」の原理に悖ることは言うまでもなく、やがて「学問の自由」を委縮させる可能性をはらんでいるからです。私たちは、菅内閣総理大臣に説明責任を果たすことを求めるとともに、件の任命拒否の撤回を求めます。

日本カント協会委員会有志（2020 年 11 月 14 日）

石田京子、犬竹正幸、大橋容一郎、長田蔵人、小野原雅夫、城戸淳、蔵田伸雄、小谷英生、佐藤慶太、菅沢龍文、田中綾乃、田中美紀子、寺田俊郎、中野裕考、御子柴善之